

# うちんたあのお宝、なんやね？

## 第33回 美濃焼をとりまく現代の作り手たち

1400年の長い歴史を持つ美濃焼。私たちにとって身近な美濃焼は、暮らしを支える産業であり、伝統工芸であり、芸術でもあり、多様な側面を有しています。

新しい博物館の建て替えに向けて、今年度いっぱいをめどに一時休館となる当館では、開館44年の収集の軌跡を紹介する展覧会をシリーズで開催しています。9月からはその第2弾として「現代の作り手たち」をテーマに、土岐市政のあゆみと密接に関わり合いながら形成されてきた当館の美術工芸コレクションをご紹介します。

まず、当館の美術工芸コレクションの礎となるのは、初代土岐市長二宮安德氏が在職中に収集した400点を超える作品群です。地元作家のみならず、濱田庄司や棟方志功といった民藝作家たちとの交流もうかがい知ることが出来ます。

そして、姉妹都市イタリアファ

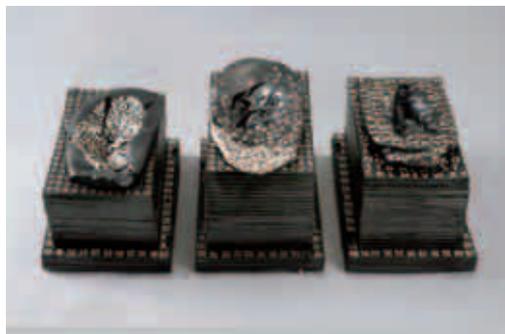
エンツァ市の作家カルロ・ザウリやジョバンニ・チマッティの作品からは、歴史ある陶磁器産地同士の文化交流の足跡をたどることができます。

1986年（昭和61年）には、当市主催のもと日本現代陶彫展が始まり、やきものを器（道具）ではなく芸術としても大きく発展させようという動きが出てきます。さらに、1989年（平成元年）に土岐市織部の日が制定されると、400年前に茶陶「美濃桃山陶」を生産した歴史を背景に、織部の心作陶展や現代茶陶展が開催されるようになります。特に、現代茶陶展は現在も続く全国規模の公募展として、多くの作り手の登竜門となっております。

本展で展示する約70点の作品からは、当市が歩んできた時代の流れと、この地に関わり各々の創作の行く先を模索した作り手たちの姿を垣間見ることが出来ます。



《七彩茶入れ》 アーグネス・フス  
第14回現代茶陶展 奨励賞（令和4年）



《問自考》 柴田節郎  
第1回ユーモア陶彫展 優秀賞（平成9年）

イベントのご案内



現代の作り手たち

9.9日・12.10日  
土岐市美濃陶磁歴史館

美濃陶磁歴史館 ☎55-1245